

記録課長
副長(寺西)
編纂課長(丸山)
寫字掛(山)

長官
副官
事務課長
同課僚(中野)
起案(土岐)
九月廿一日

外務外務七百六十号上起外務省機密案件

高田中庭案奉伺也

外務省六百十六号

其兩人核関士。シカルク比處船核関部保証

止テ昨者渡来保証満期之末明治三十二年十二月

十九日第一号年間互高者(産入)一ヶ月順易

三百三十七

2183

銀百七十五圓 金算料金三十圓 古紙法片 筆紙

及古紙法片

十三年九月十日 長官定

井上野路以渡

大陽去龍以渡

出石本文、機本、航向中、二平室物、延引、筆紙

古紙法片、延引、筆紙、機本、航向中、二平室物、延引、筆紙

及古紙法片

正和五年五月十四日

卯九二十五

省解乘組機園可容國人

約石計滿

省解乘組機園自集五人

上義者自船長

届出者未外

別端至通

届仕共也

馬海渡記

江上船長

正和八年八月二十日
海軍中佐渡種鉄

外入第七百八号

三百十九

海軍

東海鎮守府司令長官

海軍中將伊東祐磨

比叻乘船英人梅士。ヒコカリル

雇傭修約之義金剛船三拾合ヲ以テ

下而欲為書之通由出之。以居由仕也

辛酉九月十二日

東海鎮守府司令長官

海軍中將伊東祐磨

海軍少将伊東祐磨



東外入券百十二号

日本帝國海軍卿ノ命ヲ奉シ以叡艦々長海軍中佐
澤野種藏ト英國機關士ジヨウヂブレデリツキ
ピンカル氏トノ間ニ取結フ條約左ノ如シ

第一條

機關士ピンカル氏ハ明治十一年十二月九日

千八百七十八年十二月十九日

ヨリ明治十二年十二月十六日

千八百七十九年十二月十六日

マテ日本帝國

皇帝陛下ノ軍艦比叡號ニ乘組ミ奉仕スヘシ

第二條

機關士ピンカル氏ハ給料ハ一ヶ月日本貿易銀百七
拾五圓ト定メ毎月々末之ヲ渡ス可シ若シ同氏
艦内ニ勤仕スル一ヶ月未滿ノ時ハ右ノ割合ヲ
以テ勤メノ日數ニ應シ之ヲ給與スヘシ

第三條

機関士ピンカル氏ハ食卓料トシテ毎月日本紙幣三十圓ノ加給ヲ收受スヘシ尤此叡艦内ニテ職務ニ従事ノ日數ニ應シテ之ヲ給與ス可シ

第四條

此條約期限内中機関士ピンカル氏ハ居常此叡艦内ニ宿泊スヘシ若シ自己ノ好ミニテ上陸スルカ若クハ陸地ニ在テ止宿スル時ハ之カ爲メ生シタル費用ハ一切同氏ノ自費ヲ以テ辨スヘシ

第五條

此條約中機関士ピンカル氏ハ誠實ニ艦務ニ従事シテ艦内ノ諸規則ヲ遵守シ且該艦長ノ指揮ニ従フヘシ

第六條

機関士ピンカル氏ハ其職務上ノ事ニ就キ何等ノ
建議ヲ爲サント欲スルモ之ヲ談艦長ニ報呈ス
可シ而シテ若シ艦長ニテ許諾セサル時ハ之レヲ
執行ス可ラス

第七條

機関士ピンカル氏ハ居常誠實ニ奉職シ且日本當
任ノ機関士及談艦伴ト親睦友愛スヘシ

第八條

此條約期限内中機関士ピンカル氏ハ何等ノ商業ニ
テモ一切執行若シクハ關係スヘカラス

第九條

此條約満期ニ至レハ機関士ピンカル氏ハ英國迄ノ

海軍省ハ此條約滿期以前何時ニテモ之ヲ廢止スヘキ權ヲ有スト雖此時ニピンカル氏ハ此條約廢止日後一ヶ月ノ給料ト歸英船賃及ヒ旅費ヲ收受スヘシ然レモ此條約ノ終末ノ月内ニ於テ此條約ヲ廢止スルハ前ニ記述スル別段一ヶ月ノ給料ハ之ヲ給セサル可シ

第十條

海軍省ハ此條約滿期以前何時ニテモ之ヲ廢止スヘキ權ヲ有スト雖此時ニピンカル氏ハ此條約廢止日後一ヶ月ノ給料ト歸英船賃及ヒ旅費ヲ收受スヘシ然レモ此條約ノ終末ノ月内ニ於テ此條約ヲ廢止スルハ前ニ記述スル別段一ヶ月ノ給料ハ之ヲ給セサル可シ

第十一條

機関士コンカル氏ハ自己ノ好ミニヨリ此船艦長ノ同意ヲ以テ海軍長官ノ許可ヲ得此條約ヲ廢止スルハ其廢止ノ日ヨリ給料ヲ受ク可ラス

尤船賃旅費ハ收受スルヲ得ヘシ

第十二條

此條約中機関士ピンカル氏ハ何様ノ事ヲ以テスル
モ其職務ヲ怠リ或ハ品行不正ナルハ直チニ其
職務ヲ免スヘシ而シテ其免職ノ日ヨリ給料及
食卓料ヲ給與セサル可シ

第十三條

此條約期限中比叻艦内ニ於テピンカル氏病ニ罹
ルハ艦内ノ醫官之ヲ診察シ且醫藥モ政府ニ
テ給與スヘシ然レモ若シ同氏自己ノ望ミニテ他ノ
醫師ニ托シ而シテ醫藥モ他所ニテ購求スルハ
其會計ハ同氏ノ自費ヲ以テ辨ス可シ

第十四條

海軍省

此條約中機關士ポンカレ氏病ニ罹リ職務ヲ執
ル能ハサル十四日以上ニ及フハ全給ニ外ノ一ヲ
給與スヘシ而シテ若シ六十日以上ニ及フハ一切
其給料ヲ請求ス可ラス

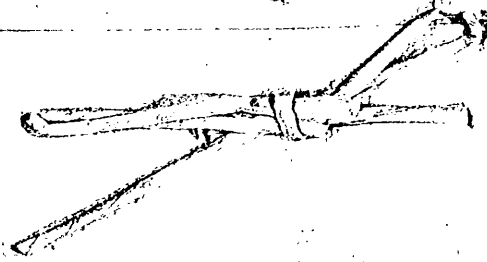
但同氏ノ病氣十四日ヲ過キ速ニ快愈ノ状
ナキガ如シハ該艦長ノ見込ニテ之
ヲ病院ニ送ルコトアル可シ

此條約書ヲ以テ下名ノ我等右ノ條款ヲ約定
シタルモノナリ

明治十年 月 日

海軍中佐澤野種藏

英國機關士



原書

ジョージ・アレドリック・ポンカル

三十三
原書

2195

取
寄
ノ

2196